

# 海外団地再生・空間比較の実測調査 - ドイツ ライネフェルデ・南団地 -

KS  
DP 関西大学  
戦略的研究基盤  
団地再編  
リーフレット  
Re-DANCHI leaflet

MAY 2012  
VOL. 029

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業  
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』



## 概要

ドイツ・ライネフェルデの再生事例である南団地の調査をおこなった。調査の目的は、大量に一斉供給された住棟による団地から、減築を中心とした団地空間の改変を試みたまちの実態把握と、模型制作のための現状の建物情報（主に形態と高さ）の測定である。調査期間は、2012年11月26日から28日までの3日間であった。

## 調査の方法

調査対象地区は、ライネフェルデ南団地を中心とした約200haである。これをA～Hまでの8ブロックに分割し、3人を1チームとした4チーム13名で分担し、1日あたり1地区を目安として調査した。1日の調査時間は、写真等を十分に撮影できる時間帯として、朝9時から夕方16時までとした（図1、図2）。

模型は、再生事業前と後の2種類を制作する事から、再生事業前のライネフェルデ南団地の情報収集も必要となる。これらの情報は、事前に現地で再生事例に関わってきたPetra FRANKE 女史に依頼し入手した（図4）。

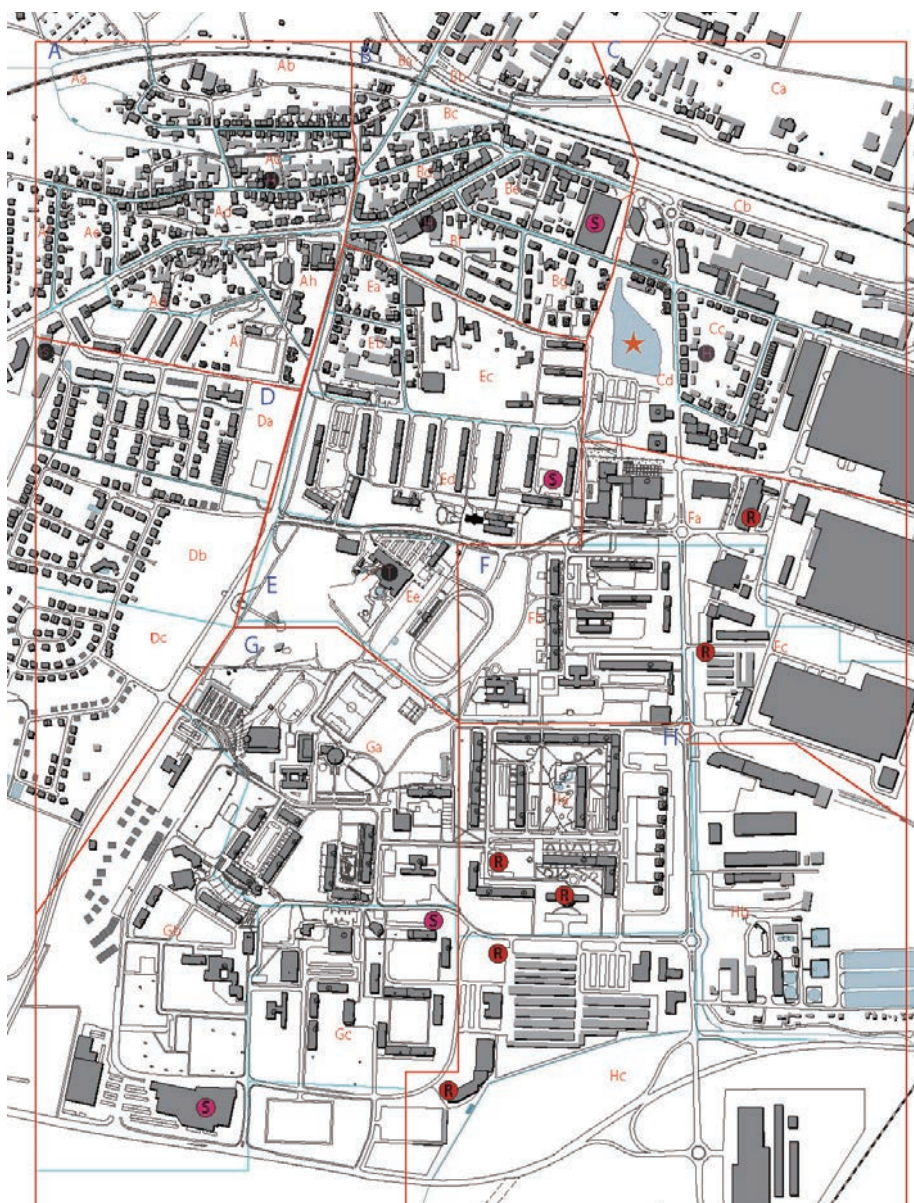


図1. ライネフェルデ地図（ライネフェルデ市提供データに加筆）



各班担当エリア

	い組	ろ組	は組	に組
11月26日	D	F	G	H
11月27日	A	B	C	E
11月28日	※	※	※	※

※前日までに終わらなかった場合続きを調査する。  
終わっている場合は団地を中心にさらに詳細な調査を行う。

調査メンバー13人

い組	辻村	福本	川上	片岡
ろ組	石橋	鳴瀬	村上	
は組	今井	永井	山中	
に組	大野	徳永	齋藤	

図2. 調査日程・担当表

調査の様子

ライネフェルデ南団地の調査は、ヒューム地区の調査での経験の蓄積があるものの、建物のスケールや街路の状況が異なる事から、改めて調査方法について確認をしてから開始した。

ライネフェルデ団地での調査の内容については、3名一組となり、作業を分担し、建物のファサードの形態を記録紙にスケッチしながら、高さの計測、数値の記入を行なった。また、1名が建物の外観の写真記録を担当した(図3)。

ライネフェルデでは特に、南団地

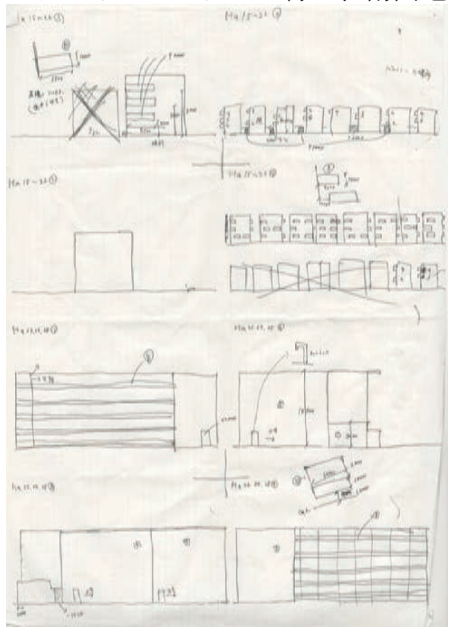


図3. 現地調査のスケッチ

の住棟のスケール・配置と旧市街地と新戸建て住宅地のスケール・配置に大きな差があり、細部の調査についての確認が必要となった。

11月末のライネフェルデの気候は非常に寒く、寒さと戦いながらの調査となった(図5~8)。

ライネフェルデでの調査は予定より早く2日間で終了し、3日目は各自近隣の都市の視察を行った。

模型の制作

調査したライネフェルデ南団地の情報を基に、縮尺1/2000の模型を制作した。再生事業前の模型については前掲のPetra FRANKE 女史からの情報を基に作製をおこない、同時に減築を中心に団地の再生を試みた再生事業後の模型については、現地調査の情報から作製した(図9、図10)。

注：写真は全て倉知徹撮影



図4. Petra FRANKE 女史



図5~8. 現地調査の様子

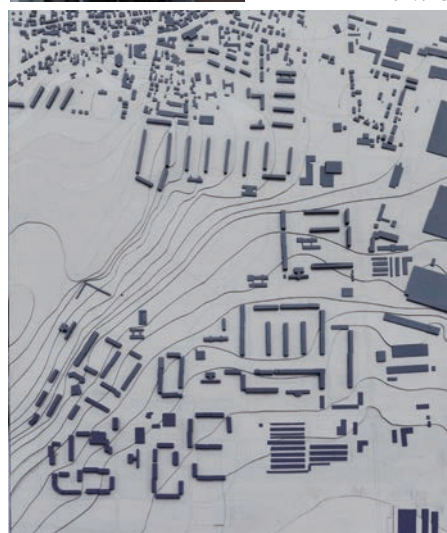


図9. 模型写真(再生事業前)

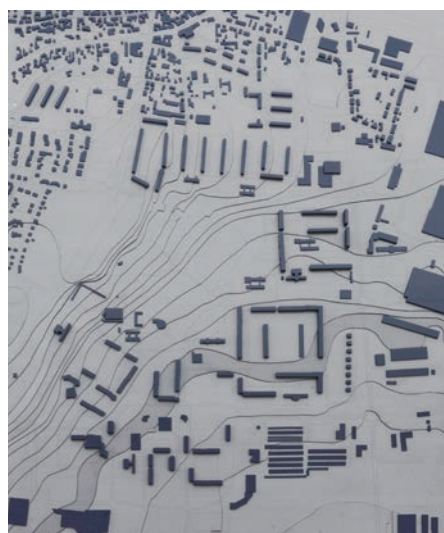


図10. 模型写真(再生事業後)

関連リーフレット：002 004

『海外団地再生・空間比較の実測調査  
- ドイツ ライネフェルデ・南団地 -』

執筆：倉知 徹(関西大学 先端科学技術推進機構)

(調査：2011年11月26~28日)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

発行：2012年5月

関西大学  
先端科学技術推進機構 地域再生センター  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
先端科学技術推進機構4F 団地再編プロジェクト室  
Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)  
URL : http://danchi2011saihen.web.fc2.com/